

海域WG担当分長期モニタリング項目							
大分類	中分類	小分類	モニタリング項目	モニタリング実施主体	評価指標	評価基準	備考
① 海洋環境	海洋環境と低次生産	水温・水質・クルルフィル、プランクトンなど	No.2 海洋観測ブイによる水温の定点観測	環境省	水温	基準なし(海洋環境等の変化を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング)	
		海水	No.① 航空機、人工衛星等による海水分布状況観測	第一管区海上保安本部、気象庁	海水の分布状況	基準なし(海洋環境等の変化を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング)	
	沿岸環境	有害物質	No.⑩ 海水中の石油、カドミウム、水銀などの分析	海上保安庁海洋情報部	表面海水及び海底堆積部の石油、PCB、重金属等の汚染物質濃度	基準値以下の濃度であること。	補助資料
② 浅海・生物相	海洋環境と低次生産	生物相	No.4 海域の生物相、及び、生息状況(浅海域定期調査)	環境省	生物相 生息密度 分布	おおよそ登録時(orベースデータのある時点)の生息状況・多様性が維持されていることが望ましい。ただし、環境変化に応じた変化が生じている場合は、その要因と今後の動向を的確に評価する。	
		生物相	No.5 浅海域における貝類定量調査	環境省	生息密度 種組成	おおよそ登録時(orベースデータのある時点)の生息状況・多様性が維持されていることが望ましい。ただし、環境変化に応じた変化が生じている場合は、その要因と今後の動向を的確に評価する。	
③ イカ類・魚類	魚介類	スルメイカ	[NEW] 「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握(スルメイカ)	北海道	漁獲量を調査	基準なし(自然環境等の変化を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング)	
			[NEW] スルメイカの資源状態の把握と評価(TAC設定に係る調査)	水産庁	資源水準・動向	基準なし(海洋環境変化に応じた資源変動と漁獲変化が起きるため、その要因と今後の動向を的確に評価する)	補助資料
		サケ類	No.③ 「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握(サケ類)	北海道	漁獲量を調査	基準なし(海洋環境等の変化を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング)	
		スケトウダラ	No.③ 「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握(スケトウダラ)	北海道	漁獲量を調査	基準なし(自然環境等の変動を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング)	
			No.④ スケトウダラの資源状態の把握と評価(TAC設定に係る調査)	水産庁	資源水準・動向	おおよそ登録時の資源状態を下回らないこと。	補助資料
		No.⑤ スケトウダラ産卵量調査	羅臼漁業協同組合 釧路水産試験場	卵分布量	基準なし(海洋環境等の変化を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング)		
その他の魚類	[NEW] 「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握(その他の魚類)	北海道	漁獲量を調査	基準なし(自然環境等の変化を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング)			
④ 鯨類・鯨脚類	海棲哺乳類	シャチ	[NEW] 羅臼海域でのシャチの来遊動向調査	知床ネイチャークルーズ	来遊頭数	基準なし(自然環境等の変化を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング)	補助資料
		ゴマフアザラシ	No.3 ゴマフアザラシの生息状況の調査	北海道	来遊頭数	おおよそ登録時(orベースデータのある時点)の生息状況・多様性が維持されていることが望ましい。ただし、環境変化に応じた変化が生じている場合は、その要因と今後の動向を的確に評価する。	
		トド	No.⑦ トドの被害実態調査	羅臼漁業協同組合、北海道	被害実態	基準なし(海洋環境等の変化を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング)	
No.⑥ トドの日本沿岸への来遊頭数の調査、人為的死亡個体の性別、特性	北海道水産研究所等		来遊頭数	おおよそ登録時(orベースデータのある時点)の生息状況・多様性が維持されていることが望ましい。ただし、環境変化に応じた変化が生じている場合は、その要因と今後の動向を的確に評価する。	現在も1つの評価シートにまとめて記載しており、他の分類についてもこれをモデルに記載。		
⑤ 鳥類	鳥類	海鳥類	No.6 ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣分布と営巣数調査	環境省	営巣数とコロニー数 特定コロニーにおける急激な変動の有無	おおよそ登録時の営巣数が維持されていること。ただし、環境変化に応じた変化が生じている場合は、その要因と今後の動向を的確に評価する。	
		海ワシ類	No.22 海ワシ類の越冬個体数の調査	環境省	海ワシ類の個体数	おおよそ登録時の生息状況が維持されていること。ただし、環境変化に応じた変化が生じている場合は、その要因と今後の動向を的確に評価する。	
			No.⑧ オジロワシ営巣地における繁殖の成否、及び、巣立ち幼鳥数のモニタリング	オジロワシモニタリング調査グループ	つがい数、繁殖成功率、生産力(つがい当たり巣立ち幼鳥数)	おおよそ登録時のつがい数、繁殖成功率、生産力が維持されていること。ただし、環境変化に応じた変化が生じている場合は、その要因と今後の動向を的確に評価する。	補助資料
			No.⑨ 全道での海ワシ類の越冬個体数の調査	合同調査グループ	海ワシ類の越冬環境 収容能力	参考資料(基準なし)	
⑥ 地域社会	地域社会	持続的利用	[NEW] 自然資源の利用と地域産業の動静調査(産業経済、地域社会)	北海道など			動態調査の1つである世界遺産関連地域の利用者数等については、長期モニタリング項目(no.19)に利用実態調査結果が記載されているので、ここでは記載しない。

新たに長期モニタリング項目に追加されるもの

※赤字の事務局がモニタリング実施主体の調査を評価し、それ以外のものについては補助資料として取り扱う。